

春に向けて吸血昆虫対策を！

吸血昆虫は、ランピースキン病や牛伝染性リンパ腫を始めとした様々な病気を伝播します。特にサシバエはさなぎの状態越冬することが知られており、春先の比較的涼しい時期に成虫となって活動が活発になります。このため、寒いうちから対策をしていくことが重要となります。

みなさんの農場でも様々な対策がなされていると思いますが、今一度、自農場で実施している対策をご確認ください。

●卵、幼虫及びさなぎ対策

- 堆肥の適切な頻度での切り返し及び水分管理
⇒発酵熱を高めて、さなぎを殺虫する。
- 昆虫成長制御剤（IGR剤）の散布
⇒牛舎壁の隅や溝、ウォーターカップの下、通路のゴムマットの下やその隙間など

●成虫対策

- 防虫ネット及びハエ取り紙の設置
- 牛舎周辺の草刈り 等



なお、薬剤は同一系統を連続的に使用すると、薬剤抵抗性の獲得が助長される可能性があります。作用機序の異なる薬剤をローテーションで使用することが推奨されます。

家畜に異常がみられたら、速やかに当所に連絡して下さい

愛知県東部家畜保健衛生所
保健衛生課(防疫第1グループ)
電話:0532-45-1141
FAX:0532-48-8943

夜間・休日緊急連絡先
090-8555-9041
090-1725-6037